

カメムシの話

SHIBA Takuya

柴 卓 也

飼料生産管理部 害虫管理研究室

皆さんは、カメムシについてどのくらいご存知でしょうか。おそらく「五角形を逆さにしたような形」と「不快な臭い」をイメージする方が多いのではないかと思います。しかし実際には、このカメムシの仲間は日本国内だけで900種以上いると言われていて、その形態、体色、臭いの強さまで様々なものが確認されています。植物から吸汁するもの、他の昆虫などを捕らえてその体液を吸汁するもの、ほ



出穂期の牧草地はカメムシの激発地になるため、水田周辺での栽培では捨て作りしないなどの注意が必要。

乳類から吸血するものなどその食性も多様で、イネ、野菜あるいは果樹などの農作物を吸汁することから、重要な農業害虫として知られているものも少なくありません。

近年、飼料作物の栽培においても、斑点米カメムシ類とよばれるカメムシの発生が問題になっています。牧草地で多発生するこれらのカメムシは、イネの穂を吸汁加害し米の品質を著しく低下させることから、イネの重要害虫としてよく知られています。牧草の収量には直接影響しないため、牧草地ではこれまではほとんど問題にされませんでした。水田周辺での牧草の栽培面積の増加によって、牧草地から発生したカメムシが周辺の水田に侵入しイネを吸汁する被害が目立ち始めました。そのため、イネへの被害を防ぐ目的で、牧草地でもカメムシの防除対策が求められるようになりました。

そこで、当研究室ではこのカメムシ問題に注目し、牧草地や放牧地におけるカメムシの発生生態の解明、内生共生糸状菌(エンドファイト)の利用や草種の選択による防除などを研究テーマとし、この問題の把握と解決に向けて取り組んでいるところです。



牧草地で発生する斑点米カメムシ類の優占種アカヒゲホソミドリカスミカメ。体長は5～6 mmで細長い緑色の体と赤色の触角を持つ。植物上では保護色となるため発見しにくい。